

岡山県感染症週報

2011 年 第 20 週 (5 月 16 日～ 5 月 22 日)

◆2011 年 第 20 週 (5/16 ～ 5/22) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 1 類感染症 : なし
- 2 類感染症 : なし
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 (O165) 1 名 (10 代 女) の発生がありました。
- 4 類感染症 : つつが虫病 1 名 (60 代 男) の発生がありました。
- 5 類感染症 : なし

■定点把握感染症の発生状況

○県内のインフルエンザの定点あたり患者報告数は、前週より減少しました (123 → 90 人 定点あたり 1.46 → 1.07 人)。ひきつづき、**インフルエンザ注意報発令中**です。手洗い・うがいを心がけましょう。

○手足口病の定点あたり患者報告数が、先週の2 倍に増えました。(定点あたり 1.44 → 3.19 人)

1. 県内の**インフルエンザ**の定点あたり患者報告数は、前週より減少しました (1.46 → 1.07 人)。全国でも 4 週連続で減少しました (1.97 → 1.62 人)。岡山県ではひきつづき、インフルエンザ注意報発令中です。手洗い・うがいを心がけましょう。
2. **手足口病**の定点あたり患者報告数が 5 週連続で増加し、今週は急増しました。(0.57 → 0.89 → 1.11 → 1.44 → 3.19 人)
3. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者報告数が増えました (0.24 → 0.70 人)。**手足口病、ヘルパンギーナ**については、**今週の注目感染症** をご覧下さい。
4. **流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**の定点あたり患者報告数は減少しました (1.69 → 1.22 人)。しかし、本年は増減を繰り返しながら、発生の多い状態で推移しています。年間を通じて発生する感染症ですので、今後の動向に注意が必要です。
5. 県内では今年 2 例目となる**つつが虫病**の発生が県北部でありました。日本紅斑熱とともにリケッチア感染症として、これからのシーズン注意が必要です。
詳しくは、**注目する感染症 『つつが虫病に注意しましょう!』『日本紅斑熱に注意しましょう!』** をご覧下さい。

今週の流行の推移と発生状況

疾 病 名	推移	発生状況	疾 病 名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★★
手足口病		★★★★★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎		★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

前週からの推移： ↓ 2 倍以上の減少 ↘ 1.1～2 倍未満の減少 → 1.1 未満の増減
 ↗ 1.1～2 倍未満の増加 ↑ 2 倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★ 僅か ★★ 少し ★★★ やや多い ★★★★ 多い ★★★★★ 非常に多い

定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

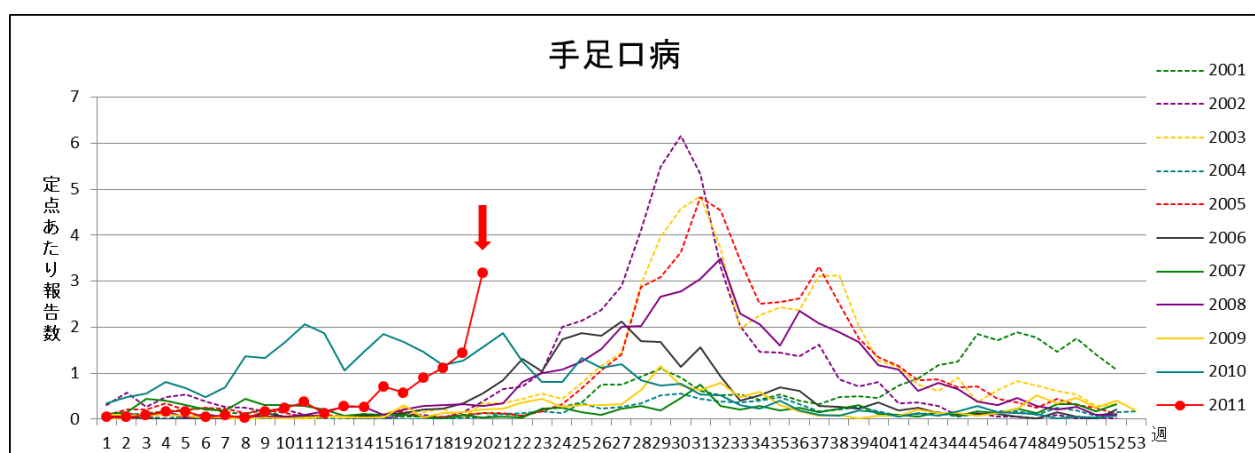
今週の注目感染症

手足口病の定点あたり患者報告数が、5週連続で増加しました。（今週定点あたり 3.19 人）。全国でも2番目に多い発生となりました。

岡山市（2.86 → 4.36 人）、倉敷市（1.27 → 4.64 人）、備前地域（0.80 → 2.80 人）、美作地域（1.83 → 2.17 人）で発生が増え、真庭地域（0.00 → 6.50 人）では患者が急増しました。

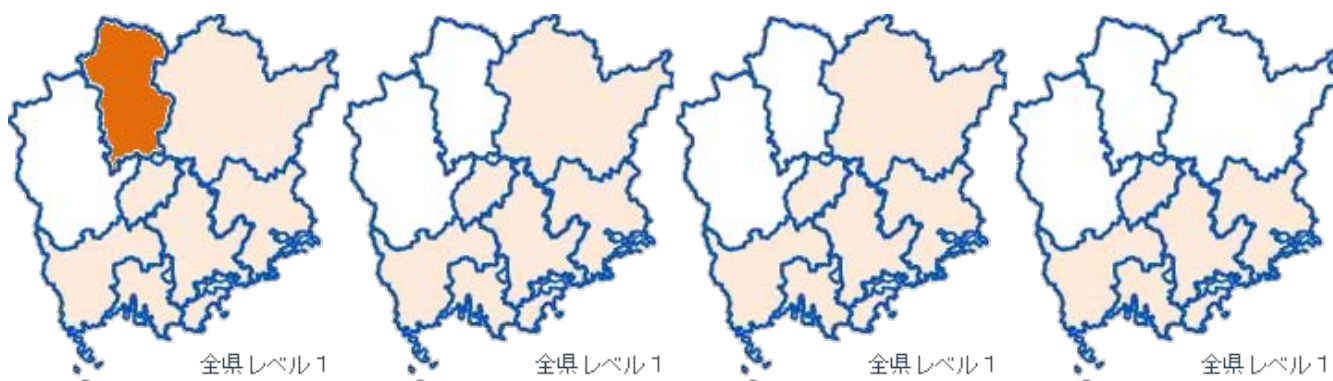
手足口病は、夏期に幼児を中心に流行する感染症です。県内でも患者の90%が3歳以下の幼児です。

発熱は軽度で、口腔粘膜および手のひら、足底や足背に2～5mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。



岡山県地区別 感染症マップ 手足口病 2011 年 20 週

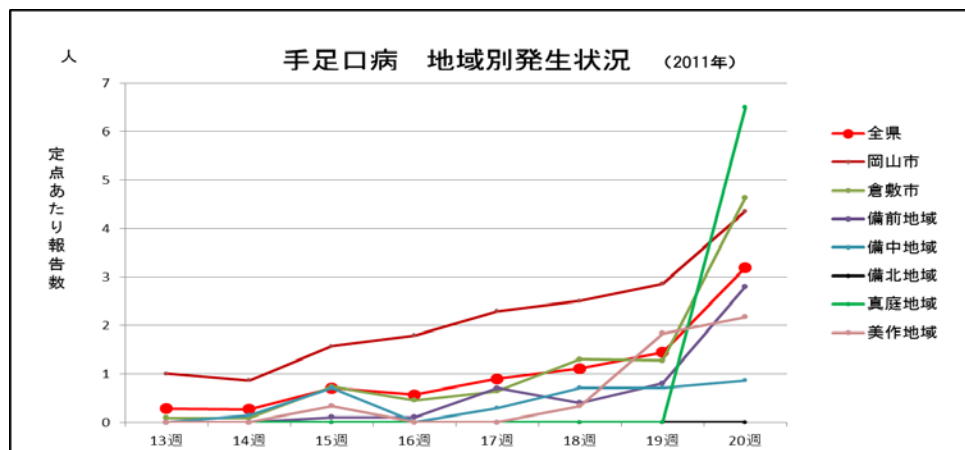
20 週 5/16 ～ 5/22 19 週 5/9 ～ 5/15 18 週 5/2 ～ 5/8 17 週 4/25 ～ 5/1



手足口病

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
5	2		0 < 5 未満	0

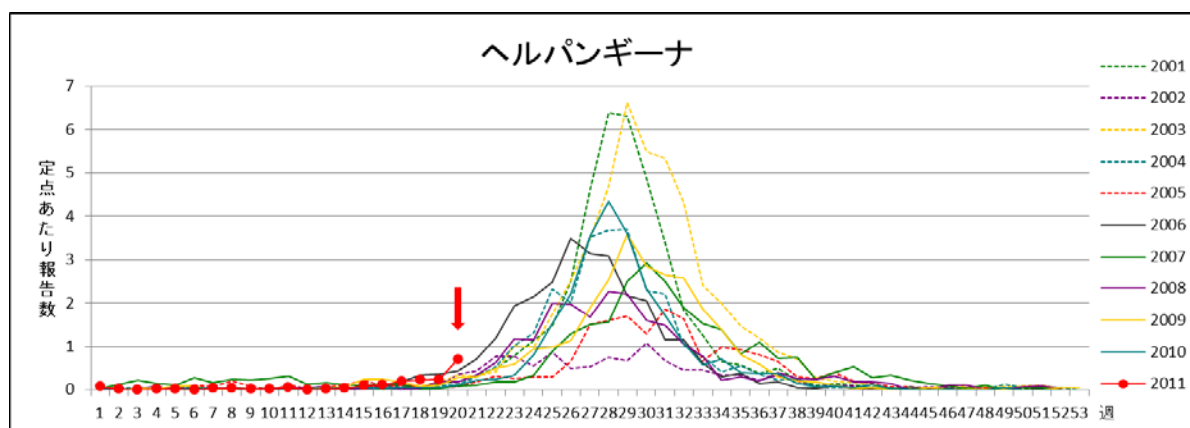
レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないと レベル3が継続されます



ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数が増えました（0.24 → 0.70 人）。特に、岡山市（0.21 → 1.50 人）、美作地域（0.50 → 1.83 人）で発生が増えました。

ヘルパンギーナは夏期に幼児を中心に流行する、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。県内でも患者の80%が3歳以下の幼児です。毎年5月頃より増加し始め、6～7月にかけてピークを迎え、8月には減少し、9～10月にはほとんど見られなくなります。

突然の発熱に続いて、口腔内に直径1～2mmの小水疱が出現するのが特徴です。



手足口病、ヘルパンギーナともに、これから流行のシーズンを迎えます。

どちらもウイルスによる感染症で、回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されます。外出後の手洗い・うがいを心がけ、感染予防に努めましょう。

保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3
数字 は感染症マップにおいて レベル2 を示しています

保健所別報告患者数 2011年 20週 (2011/05/16～2011/05/22)

2011年5月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	90	1.07	17	0.77	36	2.25	6	0.40	12	1.00	2	0.33	13	4.33	4	0.40
RSウイルス感染症	6	0.11	2	0.14	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
咽頭結膜熱	9	0.17	7	0.50	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0.70	13	0.93	19	1.73	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	283	5.24	50	3.57	52	4.73	77	7.70	23	3.29	33	8.25	7	3.50	41	6.83
水痘	58	1.07	15	1.07	11	1.00	12	1.20	—	—	3	0.75	1	0.50	16	2.67
手足口病	172	3.19	61	4.36	51	4.64	28	2.80	6	0.86	—	—	13	6.50	13	2.17
伝染性紅斑	11	0.20	3	0.21	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	7	1.17
突発性発疹	31	0.57	16	1.14	9	0.82	4	0.40	—	—	—	—	1	0.50	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	38	0.70	21	1.50	1	0.09	—	—	4	0.57	1	0.25	—	—	11	1.83
流行性耳下腺炎	66	1.22	15	1.07	24	2.18	12	1.20	8	1.14	3	0.75	1	0.50	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	1	0.25	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	1	1.00	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 20週 (2011/05/16～2011/05/22)

2011年5月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	90	1.07	17	0.77	36	2.25	6	0.40	12	1.00	2	0.33	13	4.33	4	0.40
咽頭結膜熱	9	0.17	7	0.50	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0.70	13	0.93	19	1.73	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	283	5.24	50	3.57	52	4.73	77	7.70	23	3.29	33	8.25	7	3.50	41	6.83
水痘	58	1.07	15	1.07	11	1.00	12	1.20	—	—	3	0.75	1	0.50	16	2.67
手足口病	172	3.19	61	4.36	51	4.64	28	2.80	6	0.86	—	—	13	6.50	13	2.17
伝染性紅斑	11	0.20	3	0.21	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	7	1.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	38	0.70	21	1.50	1	0.09	—	—	4	0.57	1	0.25	—	—	11	1.83
流行性耳下腺炎	66	1.22	15	1.07	24	2.18	12	1.20	8	1.14	3	0.75	1	0.50	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	1	0.25	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第20週 2011/05/16～2011/05/22)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	90	-	-	9	11	5	7	4	5	9	2	6	18	4	6	2	1	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	6	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-
咽頭結膜熱	9	-	2	2	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	-	1	1	2	2	7	8	4	4	3	3	3	-	-
感染性胃腸炎	283	2	16	36	31	26	30	19	13	9	12	13	32	8	36
水痘	58	1	7	18	6	3	6	5	1	2	2	-	4	2	1
手足口病	172	1	18	84	38	13	7	4	3	1	1	-	1	-	1
伝染性紅斑	11	-	-	-	2	-	4	-	1	1	-	1	2	-	-
突発性発疹	31	-	19	10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	38	-	8	16	5	3	2	2	2	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	66	-	-	3	5	9	11	8	3	8	7	3	8	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	2	-	-	-	-

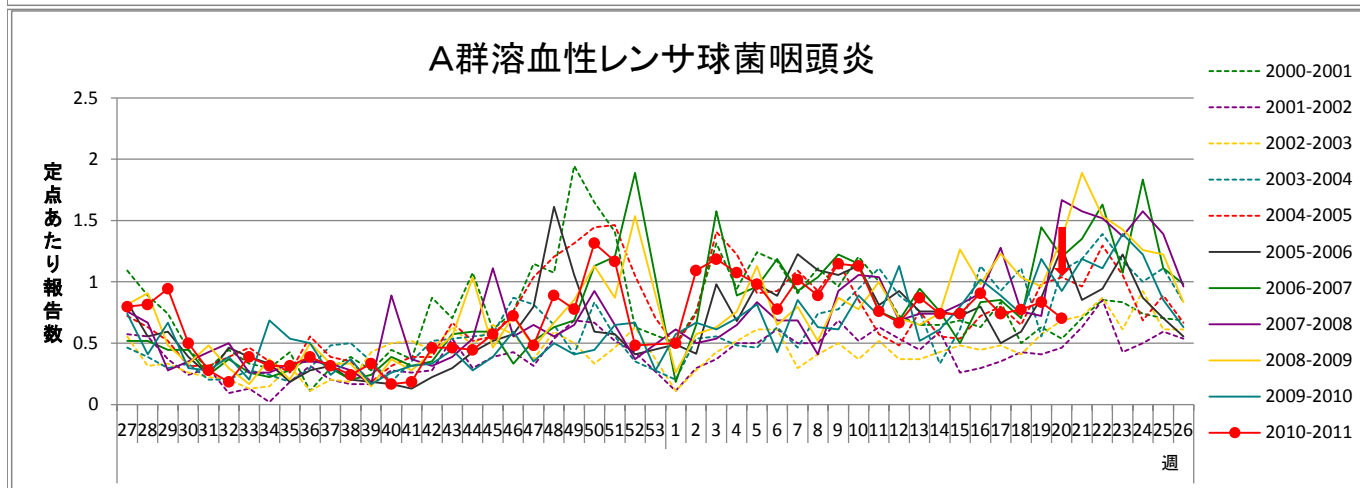
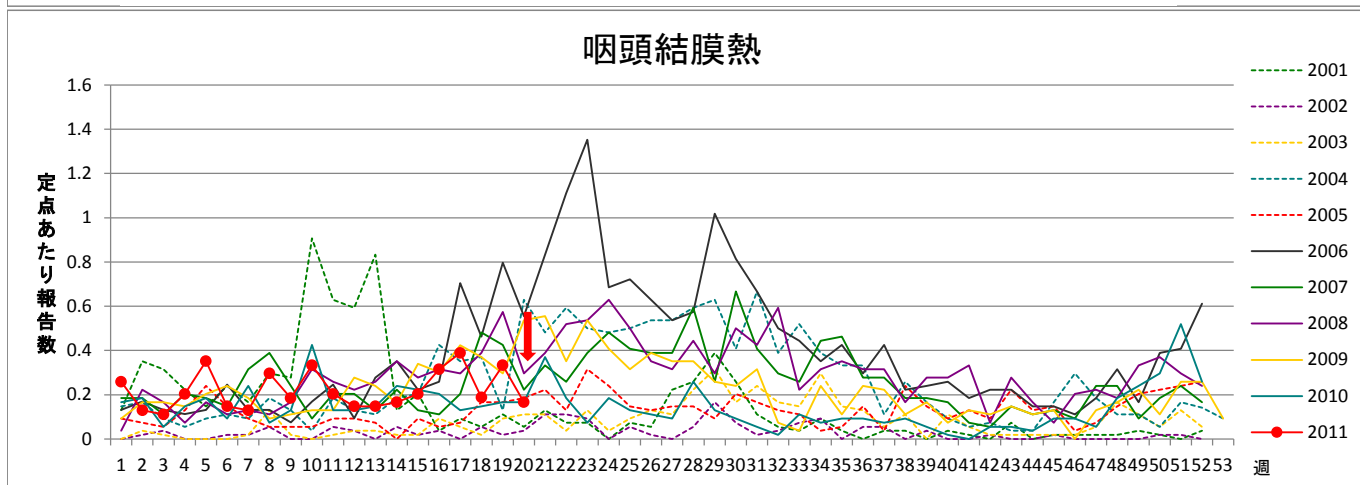
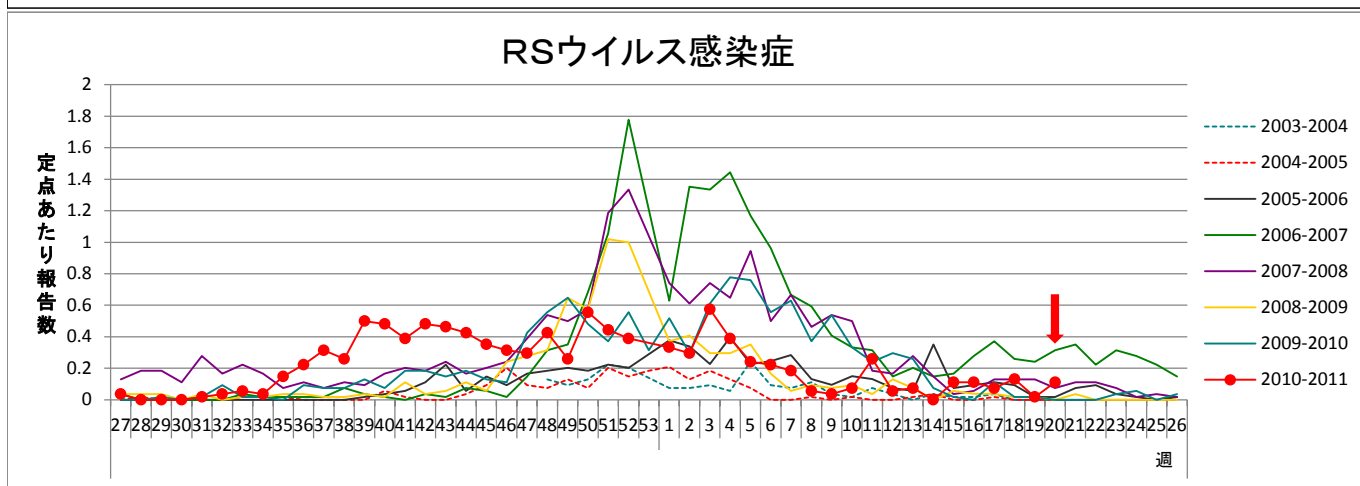
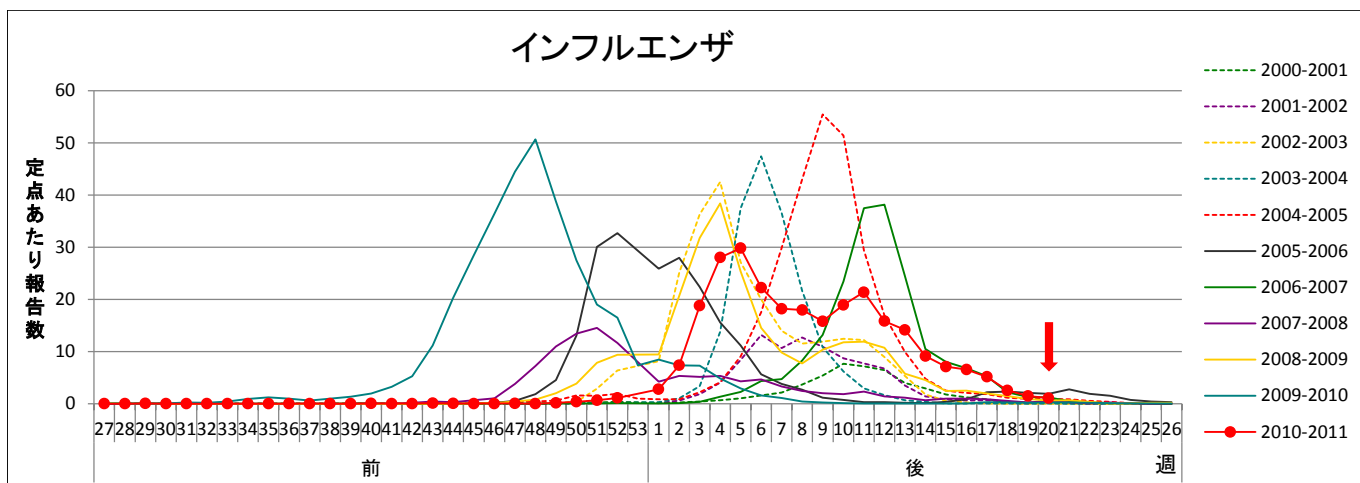
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

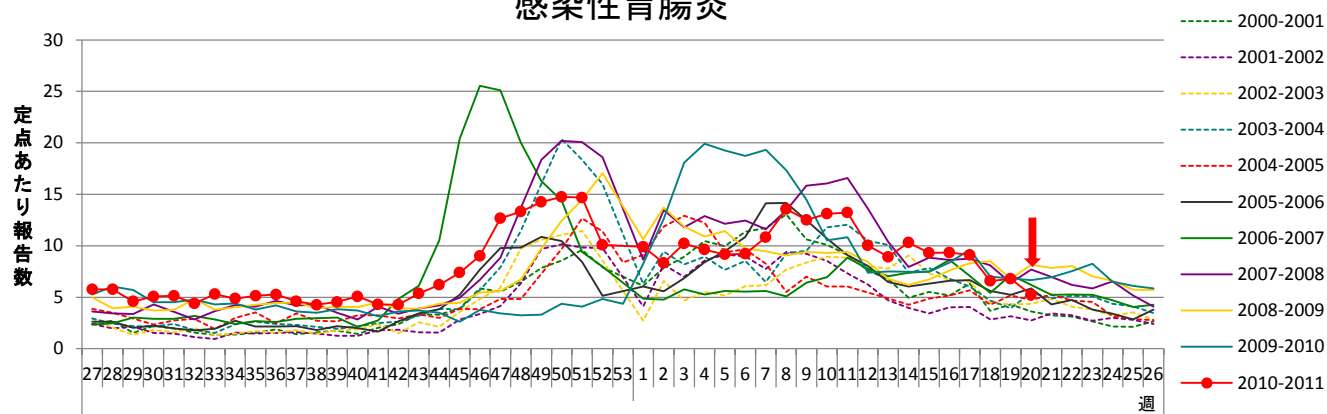
全数把握 感染症患者発生状況

2011 年 20 週

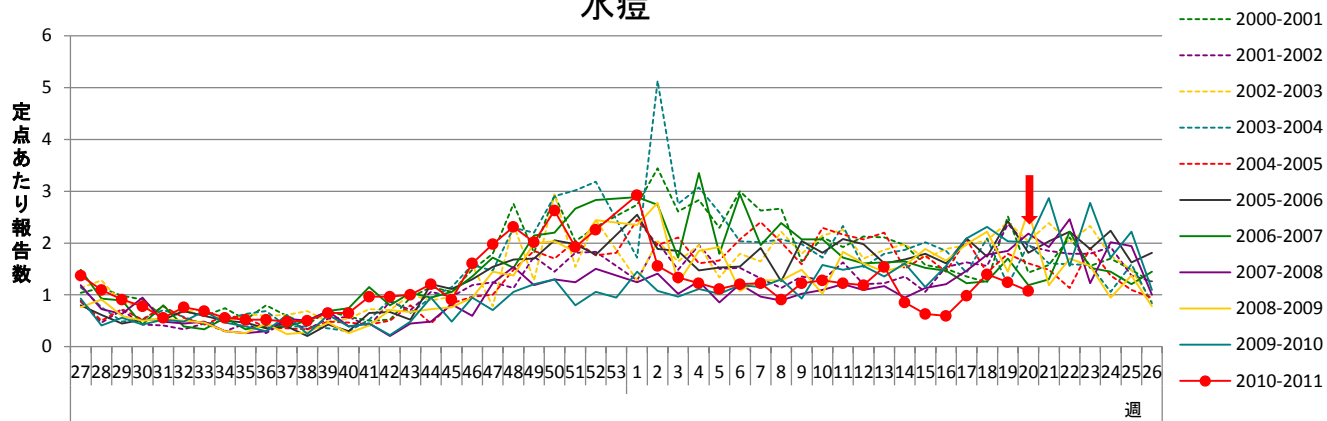
分類	疾病名	2011			2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	130	353	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群*1	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	9
	腸チフス	-	-	-		-	-	-		-	66
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 西部ウマ脳炎 チクングニア熱 東部ウマ脳炎 日本脳炎 Bウイルス病 ベネズエラウマ脳炎 ボツリヌス症 ライム病 類鼻疽 ロッキー山紅斑熱	-	-
	エキノкокクス症	-	-	-		-	-	-		-	2
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	-	-		-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	つつが虫病	1	2	1		-	-	7		-	-
	鳥インフルエンザ*2	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	鼻疽	-	-	-		-	-	-		-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	1
	マラリア	-	-	-		-	-	-		-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	-
	レジオネラ症	-	4	19		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	5	13	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 梅毒 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 髄膜炎菌性髄膜炎 破傷風 風しん	-	-
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	-	2		-	1
	後天性免疫不全症候群	-	3	22		-	1	5		-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-		-	3	9		-	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-		-	-	3		-	2
	麻しん	-	3	3		-	-	-		-	-



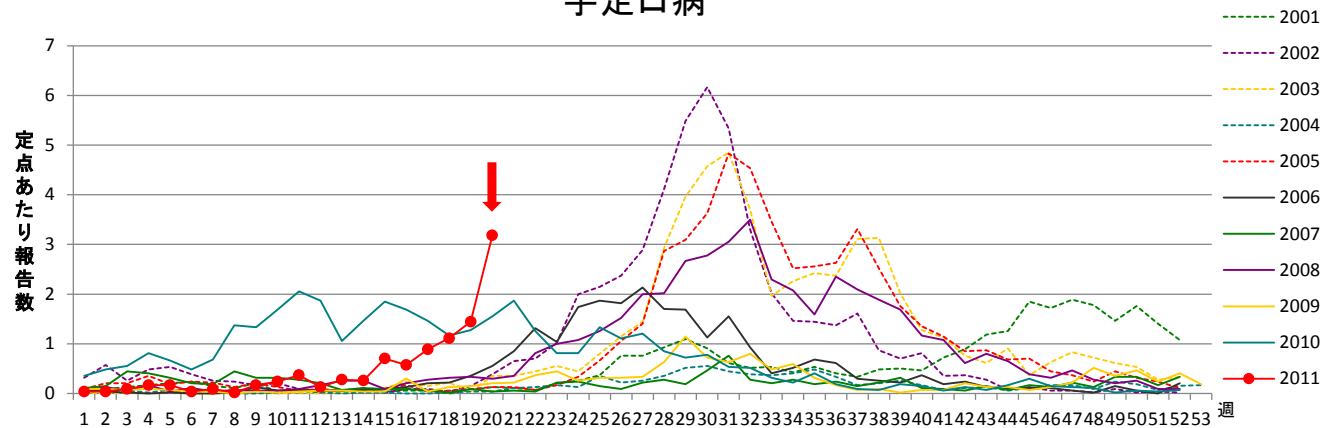
感染性胃腸炎



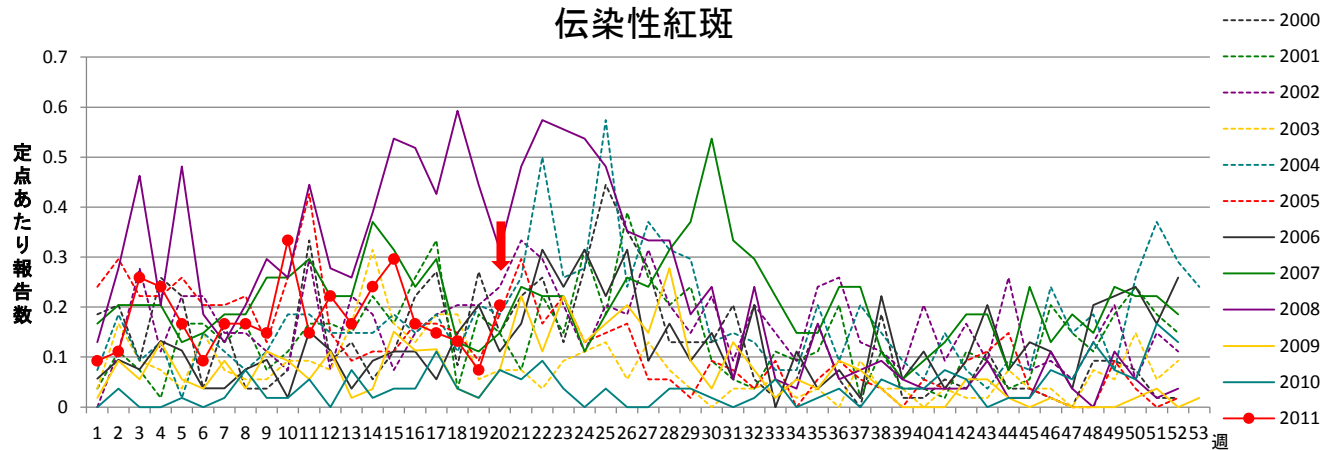
水痘



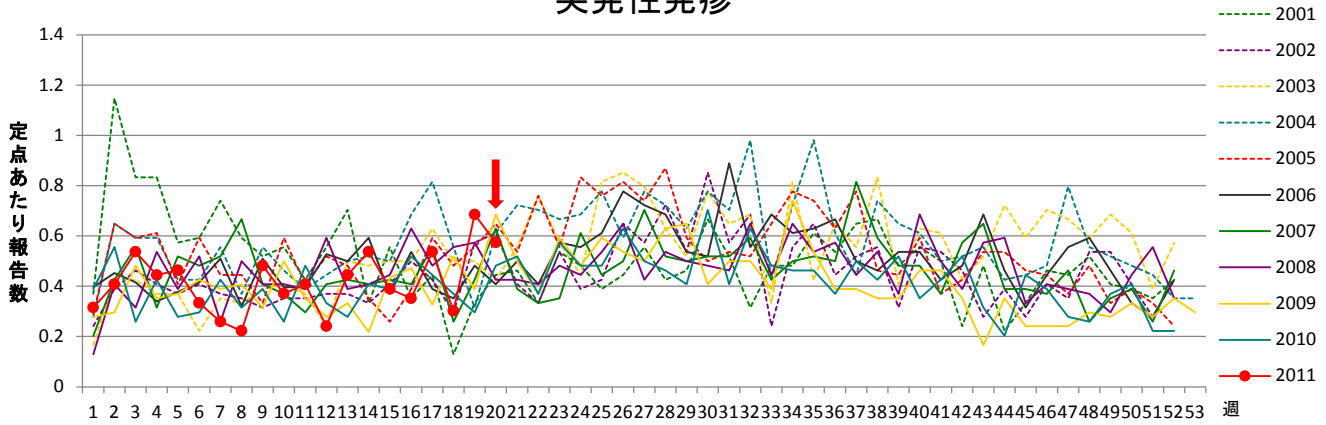
手足口病



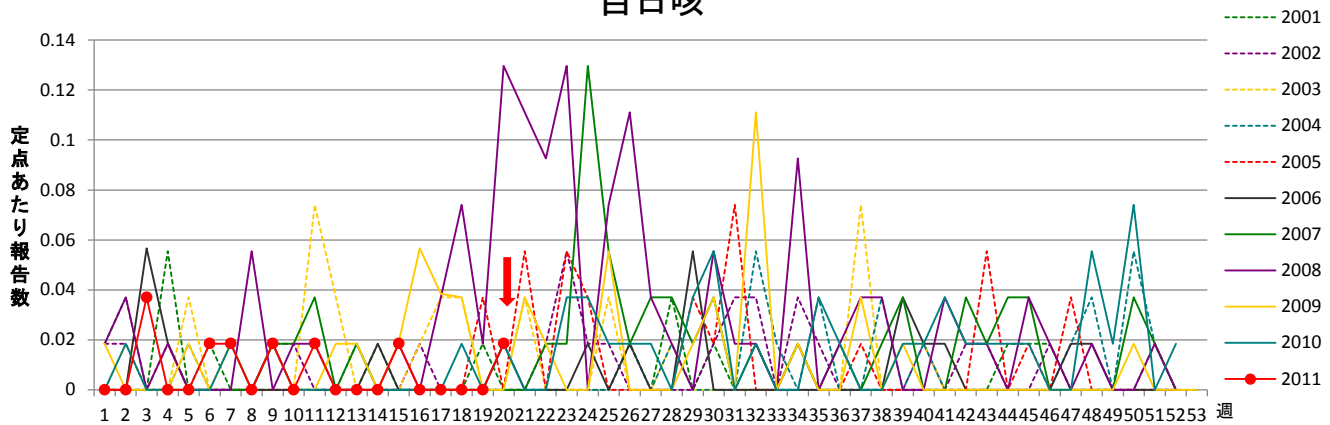
伝染性紅斑



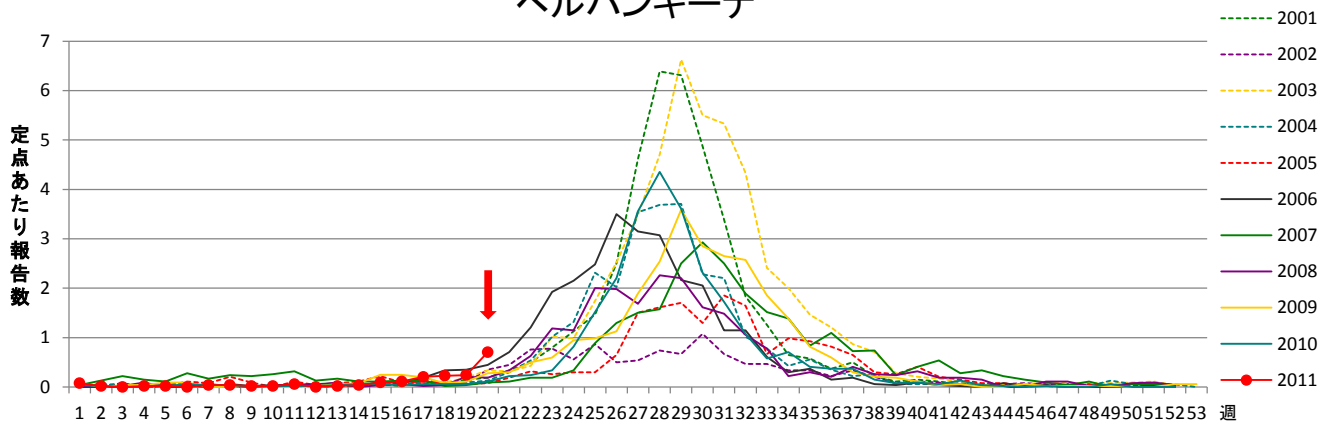
突発性発疹



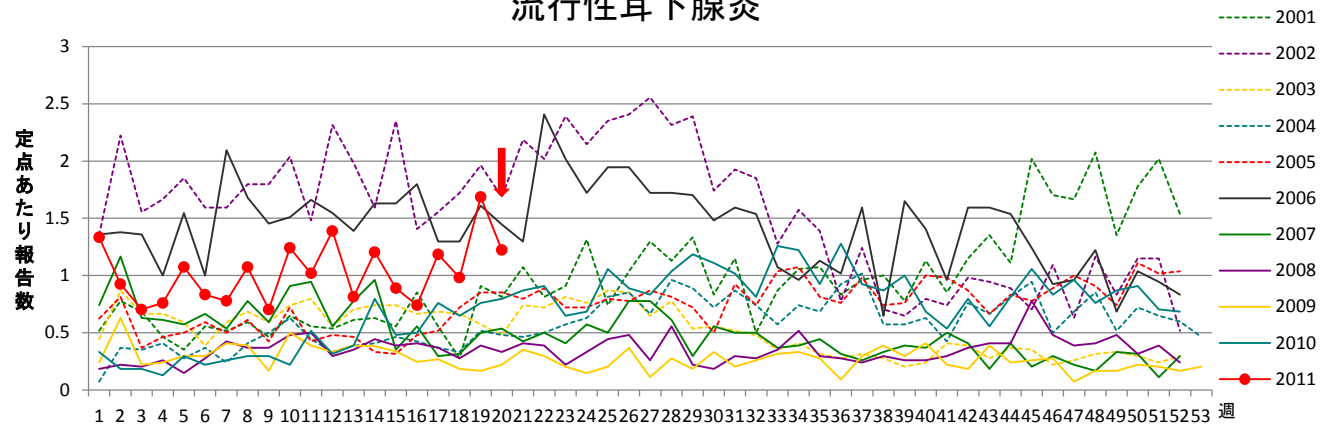
百日咳



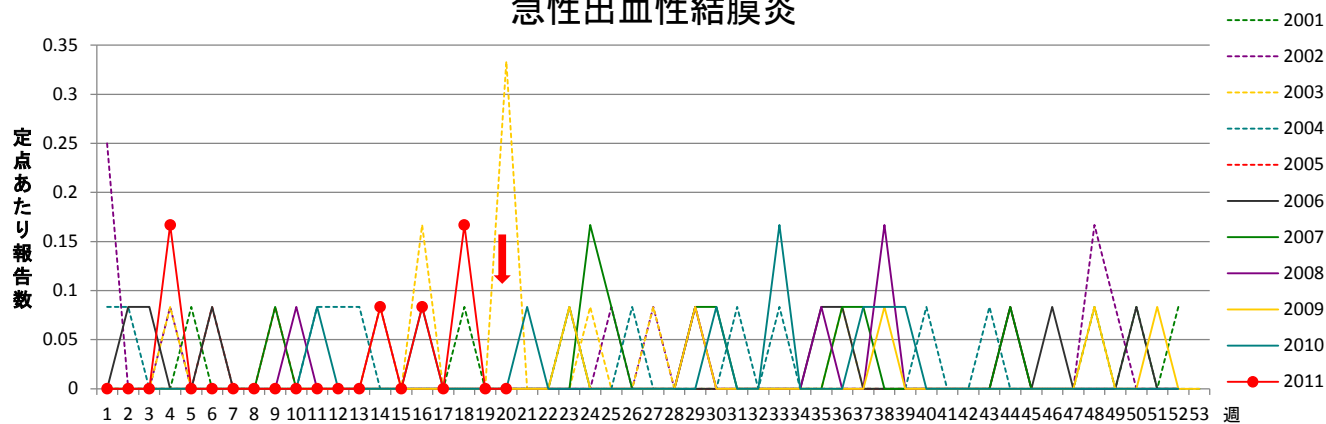
ヘルパンギーナ



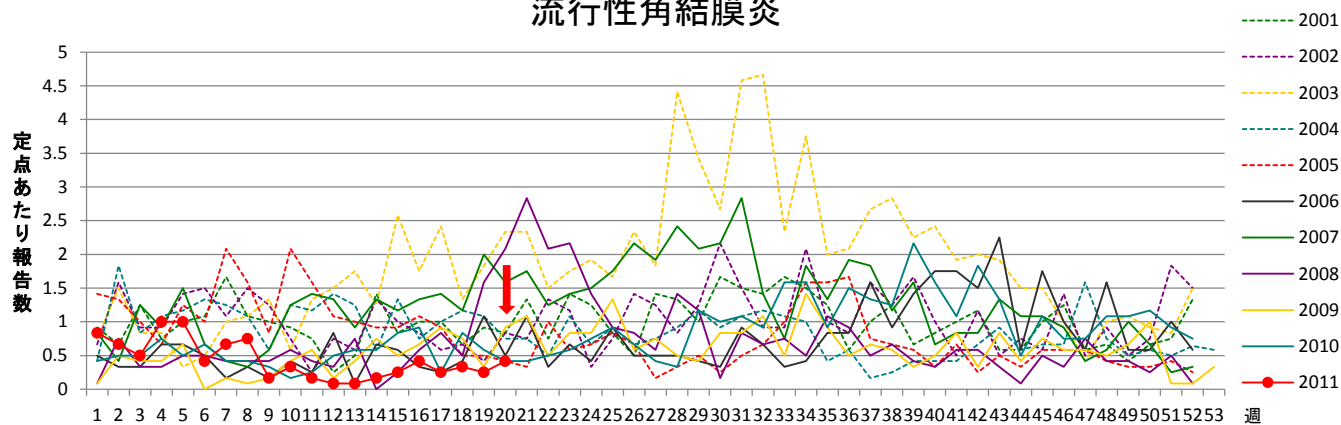
流行性耳下腺炎



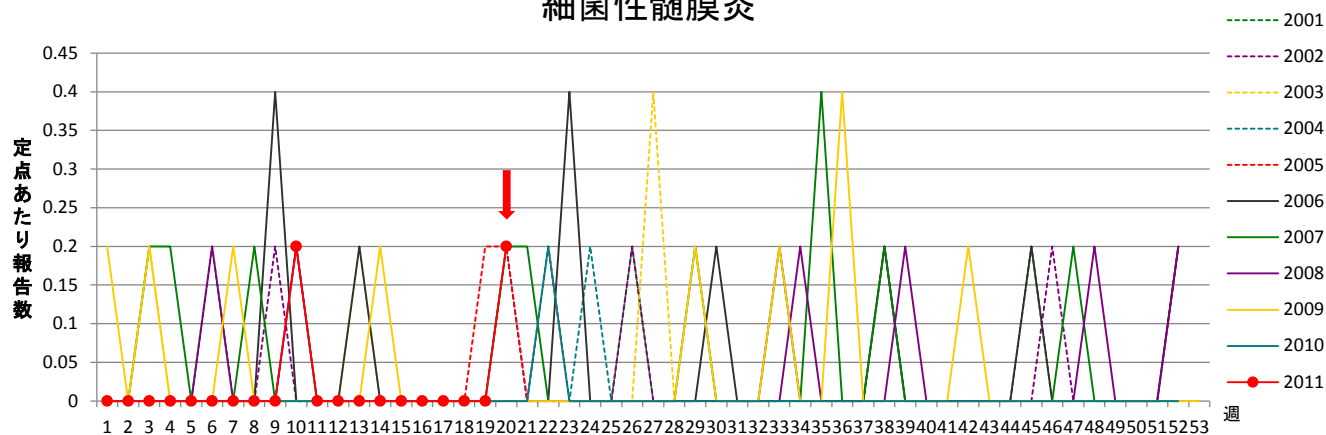
急性出血性結膜炎



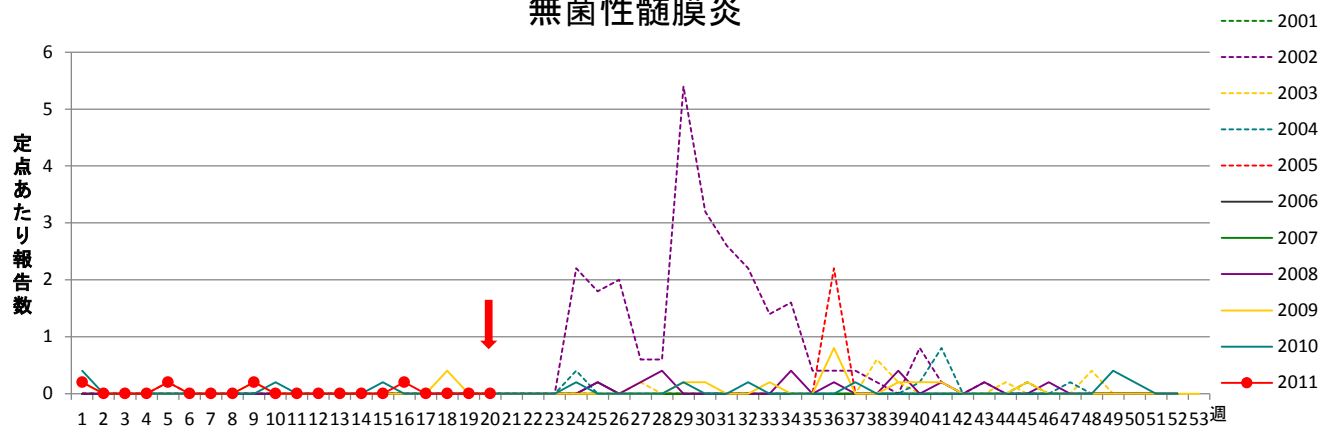
流行性角結膜炎



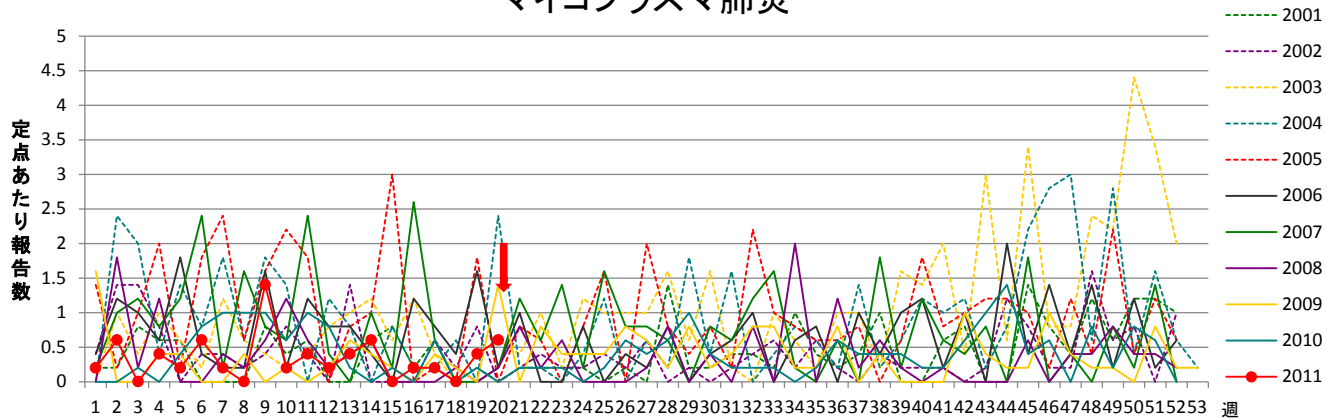
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

